



中央診療所広報 第28号(季刊) 平成23年1月1日発行

**財団法人 京都健康管理研究会 中央診療所**  
 〒604-8111 京都市中京区三条通高倉東入榎屋町58・56番地  
 外来診療 TEL 075-211-4502 FAX 075-211-3004  
 健康診断・人間ドック TEL 075-211-4503 FAX 075-211-3040  
 臨床研究センター TEL 075-211-4504 FAX 075-211-4505  
**NEWS www.chuo-c.jp**

### 試練の年を迎えて

理事長 泉 孝英



新年おめでとうございます。

しかし、皆様御承知のように、今年、平成二十三年は、わが国、また、われわれ国民にとって大変な年、文字どおり試練（決心の試される）の年になりました。内患外患を抱え込んだ新年です。

国内では、円高に加速された経済不況、今年度予算も昨年度に続いて国債（借金）が税収（収入）を上回る状態です。国債残高は税収の十七年分、いつ倒産しても不思議でない有様となっています。国外からは、北朝鮮の核開発、中国の軍備力増強、ロシアの北方領土をめぐる強硬姿勢と、わが国はまさに四面楚歌の状況に追い込まれています。

菅首相の決断力のなさ、仙谷官房長官の傲慢、小沢の金権と非難してみてもあまり意味のあることではないと言っているのが私の主張です。民主党の政権担当能力が問われていますが、自民党また自公の長期政権による大きな負の遺産の清算に迫られているのが民主政権の実情であることは誰の目にも明らかです。混乱が起こるのは当然です。自公政権が悪かった、民主政権に行政・外交能

力がないと言う前に、必要なことは、このような政権を選んだのはわれわれ国民であるという認識です。このようなことは、本来、マスコミが、率先、指摘すべきことです。しかし、残念ながら、マスコミは読者、視聴者の不満・不平に迎合して、時の政権を攻撃する姿勢だけに終わっています。「社会の木鐸（しゃかいのぼくたく）」の言葉はどこへやらです。

では、わが国のこの閉塞感を打破するにはどうすれば良いのか。まず「反省」だと思えます。

戦後六十五年、資源のないわが国が一応の生活水準の国になれたのは、欧米の技術を導入して国民が勤勉に働いた成果です。しかし、今や、中国、インドネシア、インドといった諸国の技術はわが国に遜色のない状況に向上してきました。わが国の高い人件費では対抗できるはずがありません。

「産業の活性化」とよく言われますが、わが国のおかれた現状を冷静に考えると、活性化できる可能性はきわめて少ないことです。活性化のためのコストで余計に赤字になります。

「活性化」への期待が大きくなり膨らむと「戦争待望論」になります。事実、戦後の日本経済復興の起爆剤になったのは朝鮮戦争（昭和二十五〜二十六年）、隣国の不幸、でした。そして、何よりも思い出し、おいて欲しいことは、昭和の大恐慌（昭和二年）に始まる経済不況からの脱却、閉塞感の打破を目指して満州事変（昭和六年）、支那事変（昭和八年）を起し、やがては大東亜戦争（昭和一六年）、敗戦（昭和二〇年）を迎えたわが国の歴史です。戦争によって、たしかに経済は活性化しますが、多くの国民は艱難辛苦（かんなんしんく）苦しみ悩むの目に遭わされることになることです。少しは貧しい暮らしに耐えても戦争だけは避けねばなりません。

政府は、わが国のおかれた現状を国民に正直に説明して「節約と勤勉」を国民に要求すべきです。そして、国民生活が多少苦しくなるうとも、収入以上の支出を一刻も早く止めることです。

国民はどうすれば良いか。選挙にあたって、「巧言令色鮮し仁（こうげんれいしよくすくなしじん）」、「良薬は口に苦し（りょうやくはくちにくちにがし）」の二つの格言を思い出すことだけで十分なことだと思います。

### 新年のご挨拶

所長・臨床研究センター長 長井 苑子



あけましておめでとうございます。

一年の計は元旦にあり。あれこれと夢を語り、また反省をして新年につないでいくというのが年を改めるといふことでしょうか。一年という時間の過ぎ行く早さにはおどろかされます。しかし、「生の短さ」について考えたローマ時代の哲学者セネカの言葉によれば、よく生きた時間をもつことができれば十分に人生の時間は長いのだそうです。

昨年一年、診療所においては、昨年の元旦に書きました「健康維持のための地道な活動をする」ことを継続できたのではないかと思います。社会の不況や不安を反映して、診療所にもマイナスの問題がこりうるかもしれないと予想されたのですが、診療部、健康管理部ともに安定した活動を継続できました。これも診療所を信頼していただいております患者さんや来所者さんたちのおかげ、当所スタッフ一同の努力の賜物だと思います。

診療所と臨床研究センターでは、日常の診療、健診業務に加えて、年四回の啓蒙教育活動を定着させようと努力してきました。今年第一回健康塾を開催いたします。基本的に考えていきたいこと、理解すべきこと、守りたいことなどを発信してまいります。患者さん、健診受診者さんとその事業所関連の方たち、所内の担当者、一般の方すべてに参加していただければと思います。

健康や病気に関する情報も、コレステロール値が高い方が長生きできるとか、糖尿病の基準値とか、時代とともに評価基準も変化しています。患者さんや健診者さんが情報に振り回されて、それぞれの健康管理を逸脱して損を被らないように、指針を示せる診療所をめざしたいと思えます。

当所をご受診いただく多くの人たちのくもりなき眼のおかげで、私たちはよりよい将来を期待できる環境にいるのだととらえて、スタッフ一同が人間、健康、病氣、早期発見、治療、経過観察、健康寿命などを日常業務の中で考えていき、みなさまへの健康管理や治療などの発展が可能な診療所であり続けたいと願っています。

今年もよろしくお祈り申し上げます。みなさまの心身の健康を心からお祈り申し上げます。

### 謹賀新年

健康管理部長 大田 高祐



新年あけましておめでとうございます。

中央診療所では、これまで診療部を中心に、サルコイドーシスや膠原病、そして在宅酸素療法についての患者・医療関係者の交流会を行ってきました。今年はこれに加えて、健康診断を担当する健康管理部が中心となって「健康塾」を始めるとなりました。今回は一月一九日に地下鉄烏丸線・丸太町駅すぐ近くのハートピア京都で一五時半から開催いたします。各事業所の健康診断担当の方や、受診者の方、外来通院中の方、その御家族や御友人の方、その他健康について関心のある方、どなたでも参加できますので、是非足をお運び下さい。

今回は二つの講演を行います。一つめは、当財団の泉孝英理事長による「環境と健康―病気の移り変わり―」です。病気はどの時代でもどの地域でも、同じような病気が多いわけではありません。治療法の進歩や経済状況、衛生状態などで、よく見られる病気の割合が変動します。病気は医学だけでなく、政治や経済などとも大きな関連を持っているのです。この講演で環境により病気がどのように変化してきたのかを学び、今後どのような病気が多くなっているのかを考えていただければと思います。

もう一つは、当所で栄養指導外来を担当している栗野三智子管理栄養士による「バランスの良い食事とは」という講演です。バランスの良い食事は健康の基本中の基本です。食事は毎日のことですから、偏った食事を続けていると、体調が優れなかったり、疲れが取れにくかったりなどの悪影響が出てきます。とくに最近ではメタボリック・シンドロームに関心が集まっていますので、食事についての正しい知識を得ることがより重要になってきています。この講演を聴いて、今後の食事の内容改善の参考にしていただければと思います。是非、御参加下さい。

今年も、各専門の外来との深い連携といった当所の長所を高めながら、皆様の健康管理に力を尽くしたいと考えていますので、よろしくお祈り申し上げます。